

滿川龜太郎 みつがわ べつたろう アジア問題評論家。明治二十一年一月十八日大阪府生まれ、昭和十一年五月十一日歿（八六―一九六）。立命館を経て早稲田大學、東京外國語學校の學ぶ。『海國日報』、『大日本』等の記者（となり）、大正七年國家主義團體の先驅となりつた老壯會の關係。翌年北一輝、大川周明等と海洋社を組織（十一年解散）。十二年その流れを汲む行地社が創設せられ、その主筆となる。大川と對立して脱退。一社社を興した。爾來滿川武治等の全日本興國同志會、下中瀧二郎の新日本國民同盟等の愛國運動に關はつた。拓植大學教授を務める。著書に『世界現勢と天日本』（大正十五年四月十日行地社出版部）『行地讀本』（コエムダヤ瀾の迷宮）（昭和四年六月十五日平凡社）、『二十二年以後』（昭和十年九月―二十二年平凡社、復刻版・五十二年八月―二十五年）『伝統と現代社』等。他に、異父兄の舊の國史學者若川篤元次郎の遺著『南國史話』（大正十五年五月―平凡社）を編輯刊行。

